

26年後に容疑者逮捕の衝撃、 名古屋市西区の主婦殺害事件で 遺族が求める真実

1999年に高羽奈美子さんが刺殺された名古屋市西区のアパート。今も夫の悟さんが現場の部屋を借り続けている＝11月1日、筆者撮影

26年の時を経て、衝撃的な一報が全国を駆け巡った名古屋市西区の主婦殺害事件。殺人容疑で愛知県警に逮捕されたのは被害者である高羽奈美子さん（当時32）の夫・悟さん（69）の高校時代の同級生で名古屋市港区のアルバイト・安福久美子容疑者（69）だった。悟さんは筆者の取材に「地味でおとなしい印象だったが、こんな大それたことをするなんて」と驚きを示しながら、「とにかく真実を語って、早く裁判まで終わらせてほしい」と訴えた。

◆ 昔ながらの住宅街が騒然とするも捜査は難航 ◆

事件は1999年11月13日、名古屋市西区稲生町の3階建てアパートで発生した。悟さんと奈美子さん、そして2歳だった長男の航平さん（28）は2階の一室に住んでいたが、悟さんは当日、朝から仕事で外出。午後2時ごろ、アパートの大家が届け物を持って部屋を訪れ、無施錠だったドアを開けると、廊下と居間の間に血まみれとなった奈美子さんが倒れていた。航平さんは無事で、台所のテーブルのいすに座っておもちゃで遊んでいたとされる。奈美子さんはすぐに病院へ運ばれたが、首を刺されて失血死していた。

昔ながらの町割りが残る閑静な住宅街が凄惨な殺人事件の現場となり、警察官やマスコミでごった返した。当時からアパートの目の前に住んでいる60代の男性は、「発生当時は大騒ぎで、私も妻も警察にいろいろ聞かれ、その後にご主人や親戚がアパー

トを見に来たり、ショッピングセンターで情報提供を求めるビラを配ったりする姿を見てきた。でも正直、目の前で起こったことでも、普段われわれはめったに思い出することがないほど昔の話になってしまっていた」と振り返る。

事件直後、犯人はアパートから住宅街の道路を歩いて300メートルほど北の稲生公園に行き着き、手洗い場で血の付いた手を洗ったとみられている。男性の知人で、逃走経路沿いに住んでいた住民の家では当時、まだ珍しかった防犯カメラを取り付けていたが、その録画映像に犯人は映っていなかったという。「カメラが外側（道路側）に向いていれば映ったのにと、警察に言われたらしい」。街なかの防犯カメラが当たり前となった今とは違い、証拠や目撃証言は断片的にしか残らず、容疑者を特定する捜査は難航した。